

天敵を利用したハウス抑制きゅうりの
総合防除体系の実証

【1. 概要】

- ・ハウス抑制きゅうりにおいて、カブリダニを活用し、黄化えそ病と媒介虫のアザミウマ類の効果的な防除法を実証
- ・H26年度の管内導入面積は117a。平成23年度比39倍で、産地での普及率は14.9%
- ・研修資料を作成し、各生産部会での講習会を開催(H27年度は4回)

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・平成25年8月定植のハウス抑制きゅうり(品種:ズバリ163)において、八幡浜支局産地育成室が実証
- ・きゅうりの重要病害である黄化えそ病の発生では媒介虫ミナミキイロアザミウマの薬剤抵抗性の発達が危惧されている。この解決のため、天敵利用によるIPM技術を導入(図1、2)

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・国の補助事業である新技術導入広域推進事業の活用
- ・赤色防虫ネット、粘着板を併用した体系防除を実証

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・天敵利用の関心が高まり、導入面積が増加(H23:3a→H26:117a)している
- ・アザミウマ類の制御による黄化えそ病の防除効果を確認
- ・天敵導入により、10aあたり約48,000円経費を要したが、約200kg/10a以上増収したことで、収益の増加が図られた

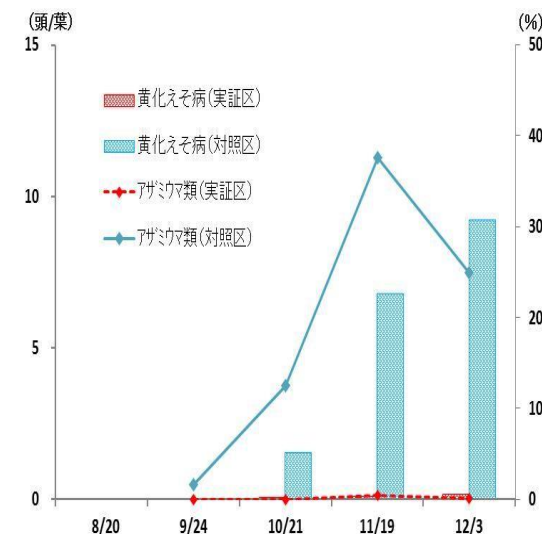


図1. 黄化えそ病とアザミウマ類の発生推移(H25)



図2. 実証試験の実施状況

【問い合わせ先】
南予地方局八幡浜支局
産地育成室
電話：0894-27-0329